

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	プログラミング療育放ディ エスタシオン 稲毛教室		
○保護者評価実施期間	2025年11月12日 ~ 2025年11月19日		
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	3	(回答者数)	3
○従業者評価実施期間	2025年11月12日 ~ 2025年11月19日		
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月23日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われるこ と ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラミングなどのデジタル教育に特化した放課後ディイで、特性を持ったお子さまが将来へ向けて特性を強みに変えられるような取り組みを行っている。	マインクラフトの仮想空間でのSST デジタル空間に先生やメンバー複数で入り、協調性や相手の立場になって考えるなどソーシャルスキルを養うことを行っている。	課題に対する実績を増やし、それを踏まえた支援の内容を検討する。
2	支援方法について職員間で情報共有を行い、一貫した対忾を行っている。	マインクラフトの前回のデータなども参考し、支援方法や課題について職員間で共有している。 予想される問題についての対忾方法もミーティングを行って決定している。	それぞれの課題に対する対忾や取り組みについても共有していく。
3	保護者の相談について連携を図りながら対忾している	児童相談所などの関係機関などとも連携を図っていく	プログラミング療育のプログラム設定をさらに充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われるこ と ※事業所の課題や改善が必要だと思われるこ	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現状ほぼ満員のため、通所の回数を増やす要望に忾じる ことができていない。	キャンセル待ちなどの運用をシステムマティックに対忾できていなかった	現在はキャンセル待ちのシステムを構築し発信している。
2	関係機関との連携が完全ではない。	開所して日が浅く最低限の連携に留まっていた。	今後は広い視野で関係機関との連携を図る
3	就学前に課題になったことや学校での支援方法について 共有を行っていない。	児童発達支援のお子様の割合が少なく、連携の必要性が薄かった。	今後は広い視野で関係機関との連携を図る